

令和7年度（2025）新潟経営大学

入学者選抜 総合型選抜 主体性重視 3期 問題冊子

小論文

（経営情報学部 経営情報学科/スポーツマネジメント学科）

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、及び答案用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 受験番号欄に受験番号を数字で記入しなさい。
4. 氏名欄に氏名を記入しなさい。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

感染禍で進む不気味な変化

新型コロナウイルスがもたらした新しい生活様式には、良い面もあったと言われている。無駄な会議がなくなった、満員電車に乗らなくて良くなった。つまらない飲み会に参加させられることがなくなった、などなど。

コロナによって、無駄とむちゃと無理強いがあぶり出され、それらが「不要不急」の名の下に取捨選択された結果、より快適で無駄のない生活を、私たちは手に入れたというわけだ。

しかし、この病気に関する聞き取りを続けると、大っぴらにはできない大人の本音も見えてくる。

感染予防のため丸1日あった運動会を半日にした。いざやってみると、とても「楽」であつたので「来年以降もそうしてほしい」と保護者からの声が寄せられる。町内会の行事は、もともと準備や告知が大変だった。コロナのおかげでやらない口実ができて楽でいい。病院へのお見舞いを制限した。すると患者家族とのやりとりが減って楽になった。

大学の講義がオンラインになった。教室に行かなくていいのはとても楽。これは学生だけでなく、教員の本音でもあろう。実際、コロナ前まで教員でゴった返していた私の非常勤先の授業準備室は、コロナ後にがらんととなり、それは東京都内の感染者が50人を切っても変わらなかった。

人間はできる限り楽をしたい生き物である。しかし「楽をしたいから、やりたくない」とは言いづらい。ところがコロナ禍は、「楽をしたい」という本音を「感染予防」の大義名分で覆い隠すことに成功した。

生きる上で身体と他者ほど面倒くさいものはない。動けば疲れる、眠くなる。何もしなければ髪も眉毛もボサボサになり、風呂に入らなければ臭くなる。自分ではない誰かは、時に存外な言動をして私たちを傷つける。

しかし、私たちは生きる限り、この二つから逃れることはできない。人付き合いがいくら面倒くさくとも、人様の迷惑とならないよう言動に気を使い、身なりを整えていなければならない。他者と身体は生きることの味わいをもたらしもするが、同時にそれらは疲労の源泉でもある。だからこそ、体を整え、動かすことや、他者との関わりが減ることは、楽と通ずるのである。

「少しずつすべての器具を人間の外に押し出していく」のが人間の進化であると、フランスの人類学者アンドレ・ルロワグーランは述べた。食べ物をすりつぶしたり、切り刻んだりする作業を、歯から調理器具へと押し出す。脳でする計算を計算機に押し出す。

足で移動する作業を自動車へ押し出す。手でハンドルを切る作業を運転手へ、さらには自動運転へ押し出す。そればかりでなく体全体をデジタルに変換し、移動自体を消去する。

身体に備わった種々の「器具」をこうやって外側に押し出し、場合によっては消し去ることで、私たちは身体と他者と関わることの煩わしさから解放され、ずっと楽に生きることが可能となった。

ルロワグーランが言うように、これを「進化」と呼ぶのならそうかもしれない。しかしいったい私たちはどこまで、楽を追い求めるのだろう。

ひとたび、ある煩わしさがなくなると、次の煩わしさが顔を出す。CDで音楽を聴くことを面倒と思った人は、1990年代はいなかったはずだ。それはカセットテープの煩わしさを削減する革新的な技術であった。しかしオンラインの音楽配信が当たり前となった今、CDを機器に入れる作業を煩わしいと感じる人は多いのではないか。

テレワークやオンラインミーティングによって私たちは、移動しないことの快適さを味わった。しかし今度はそれすらも煩わしくなるかもしれない。

コロナ禍における感染予防の不気味さは、身体と他者の煩わしさをあぶり出し、それをできる限り削減することを、感染予防の下に推進したことである。

そのうち私たちは、①生きることそのものすらも面倒くさいと思うようになるかもしれない。人間という存在そのものが変化してしまうような時代を私たちは生きている。

(出典) 新潟日報 2022年1月21日 一部抜粋

問1 下線部①生きることそのものすらも面倒くさいと思うようになるかもしれない。人間という存在そのものが変化してしまうような時代を私たちは生きているとありますが、こうした不安をもたらす理由は何か、200字程度で説明しなさい。

問2 コロナ禍をきっかけに身の回りで起きた生活様式の変化について、あなた自身が感じた「良い面」と「悪いの面」を挙げ、ポストコロナ以降の時代に、求められる意識、思考、行動について、考えられることを400字程度で述べなさい。